

序 文

平成12年に古希を迎えられた上野格教授は、成城学園就業規則に従い、平成13年3月をもって成城大学経済学部を定年退職され、成城大学名誉教授に推挙された。

本学経済学部教授会は、上野教授の古希を祝し、長年にわたる先生の学恩に心からなる感謝の意を表すため、機関誌『成城大学経済研究』第159号を特別号とし、「上野格名誉教授古稀記念号」を編むことを決定した。われわれのこのような企画に対して、多くの方々が快く賛意を表され、それぞれ力のこもった論考をお寄せ下さった。まず、上野教授と学部生時代からの親しい学友であられる藤田勝次郎教授、アイルランド問題の研究仲間の新藤達也氏、また上野ゼミ門下からは親身の指導を仰いだ藤田楯彦教授、伊東利勝教授、叶秋男教授、上岡修先生から力作をお寄せいただいた。われわれの深く喜びとするところである。

本学経済学部からも、池田浩太郎名誉教授はじめ昨年度まで職をともした角田俊男武蔵大学教授ほか多くの同僚から、日頃の研究成果を世に問う形で論考が寄せられた。また、上野教授には、このような企画における慣例にしたがって、ご経歴及びご業績をまとめていただいたばかりでなく、ご自身からも19世紀にアイルランドで活躍した経済学者についての貴重な論考が寄せられた。「記念号」に花を添えるご労作をいただき、深く感謝する次第である。

上野教授は、一橋大学大学院経済学研究科博士課程の単位を取得後、昭和36年に経済学部助手として着任された。以来、専任講師、助教授、教授として、40年の長きにわたり、成城大学経済学部の教育・研究の発展

序 文

に大きく貢献されるとともに、後述するように多くの役職を勤められ、大学・法人運営にも多大な貢献をされた。

上野教授の研究業績は本号掲載の「履歴」に詳しいが、教授は一橋大学の学部・大学院を通して高島善哉ゼミナールにおいてアダム・スミスの国富論を徹底的に学び、経済学史研究者としての基礎を形作られた。研究者の道を歩み始められた教授の関心は、産業革命のもたらした「影」の部分に向けられ、オーエン、トムソン、ブレイ等のイギリスの初期社会主義学説について研究を深められ、その成果は多くの論文・著書として結実している。

こうした経済学史研究の過程において、イギリスの植民地であったアイルランドの独立運動への関心が芽生え、教授のもうひとつの大きな研究領域が形成されることになった。すでに、スミスや J. S. ミルの研究の過程で彼らの論考の中にアイルランドへの言及を見出されていたが、その後、とくに 19 世紀末においてイギリスの社会主義者達がアイルランド問題に言及することなく、「インターナショナリズム」の名の下にナショナリズムに対して否定的な態度をとっていることへの疑問から、アイルランドの独立運動における、ナショナリズムと社会主義の結合の問題に強い関心を抱かれ、1960 年代後半以降アイルランド・ナショナリズムの研究に積極的に取り組まれるようになった。

1972 年には日本アイルランド協会に入会し、協会主催のアイルランド訪問に参加、帰国後アイルランド歴史研究会の立ち上げに参画され、その後も一貫して主要メンバーとして活躍されている。さらに上野教授は、朝鮮総督府がイギリスのアイルランド統治政策から朝鮮支配の方策を学ぼうとしていたことを、部内資料『愛蘭問題』を入手して知ったのを契機に、わが国におけるアイルランド研究史の発掘にも取り組まれた。当時の通説とは異なり、明治以降、わが国にも多くのアイルランド研究があり、とくに明治期には保護貿易論者がアイルランドを例にとって欧米列強との自由

序 文

貿易の危険を説いていたことなどを明らかにされている。

上野教授とアイルランドとの関係は、こうした学問的領域にとどまらず、1980年には日本アイルランド協会の理事長として、また2000年から会長の職にあって、日本とアイルランドとの友好親善に大きく貢献をされている。

このように、上野教授の経済学史研究とアイルランド史研究という2つの大きな柱は、教授の学問の中では密接・不可分の関係をもつものである。本記念号にお寄せいただいた論考は、アイルランド史からみた「アイルランドの経済学者達」について論を進めたものであり、これはいまだ本国でも十分な研究が行われていないテーマである。まさに、教授の真骨頂を示すものといえよう。

上野教授は、こうした多くの研究業績や社会的活動に加え、成城大学および成城学園の運営において比類のない貢献をされてきた。教授は昭和50年から図書館長、昭和54年から成城学園教育研究所所長、昭和60年から学生部長、平成元年から経済学部長と、18年の長きにわたり一貫して要職にあられた。さらに平成6年から10年までは大学院経済学研究科科長を務められ、経営学専攻博士課程の創設に尽力された。この間、大学評議員、法人の理事・評議員も多年にわたって務められ、教授のこの面における貢献は、経済学部にとどまらず大学・学校法人の運営全般にわたっている。

上野教授の衰えを知らない研究へのご意欲から、今後ますます多彩な成果が生み出されることを期待しつつ、先生の成城大学、成城学園の教育・研究と運営に対する長年にわたるご貢献に改めて深い感謝の意を表したい。

平成15年1月5日

経済学部長・経済学会長

油 井 雄 二